

業界オピニオン

# いま工務店が考えるべきキーワード

## 2 いま考えたいクオリティ・オブ・ライフ

田鎖郁男氏(株エヌ・シー・エヌ社長)に「工務店がいま考えるべきこと」を直言いただくシリーズの2回目。今回は家づくりの世界でも考えるべき「クオリティ・オブ・ライフ」とその「インフォームドコンセント」の重要性について指摘していただいた。

昨年は、言うまでもなく建築基準法改正で確認申請が大きく滞りこの業界に身を置く我々にとって大変な一年でありました。今年「200年住宅の推進」「4号特例の廃止」(延期になるというニュースもありますが)、翌年には「瑕疵担保責任保険の義務化」と法改正も次々と行われ、我々も時代の变化に取り残されないように新たな取り組みをしなければならぬ年になることでしょう。

量から質へとは単純にローコストから高級住宅へとということでしょうか? どうもそんな単純なことではなさそうです。住宅の性能は50年前とは比べられないほど向上しています。そのうえでさらに質を求めるという時代の意味を考えさせられます。私は、住宅に求められる質とは、まさに住む人の「クオリティ・オブ・ライフ(QOL)」のことでないかと考えます。

「クオリティ・オブ・ライフ」という言葉は、医療や福祉の分野では非常に重視されている言葉です。20世紀、医学が目覚ましい進歩を遂げ、昔なら絶命したであろう患者も延命させることが可能になりました。そんな中で「医学の進歩は病気を克服したが、患者は死んだ」という状態が問題になり、「患者自身がより尊厳を保つことが出来るような生活を実現するための援助をすること」が医療の現場では重視されるようになってきたのです。これを患者の「QOLを考へる」といいます。

突然医療の話で「何?」と思われるかもしれませんが、実は住宅の質を考へる上でも重要な議論だと思ふのです。最近、日本は昔と比べて豊かになつてきたと感じることが多いと思います。私が子供のころ、近所に流れていたあの臭くて汚かった神田川には、今、魚が泳いでいる。隙間風と戦いながら、台風の日には、桶を持って走り回った昔の風景は懐かしさと共に消えた。今や家の断熱性能は格段の進歩を遂げ、もちろん雨漏りする家はなくなつた。その上で、お客様は外観を選ぶだけでなく、窓の景色も選ぶようになってきた。部屋数だけを競うことを辞め、どこで、なにをして過ごすのかで、空間を考へるようになってきた。日本人の住宅に対する価値観は知らず知らずの内に変わつてきていると思ふます。

住宅に求められる質はクオリティ・オブ・ライフ

一連の法律改正の基本テーマは「量から質の時代へ」です。質の時代とは? 上質な住まいとは?

非常に重視されている言葉です。20世紀、医学が目覚ましい進歩を遂げ、昔なら絶命したであろう患者も延命させることが可能になりました。そんな中で「医学の進歩

最近、日本は昔と比べて豊かになつてきたと感じることが多いと思います。私が子供のころ、近所に流れていたあの臭くて汚かった神田川には、今、魚が泳いでいる。隙間風

と戦いながら、台風の日には、桶を持って走り回った昔の風景は懐かしさと共に消えた。今や家の断熱性能は格段の進歩を遂げ、もちろん雨漏りする家はなくなつた。その上で、お客様は外観を選ぶだけでなく、窓の景色も選ぶようになってきた。部屋数だけを競うことを辞め、どこで、なにをして過ごすのかで、空間を考へるようになってきた。日本人の住宅に対する価値観は知らず知らずの内に変わつてきていると思ふます。

### 第2回 (株)エヌ・シー・エヌ代表取締役社長

# 田鎖郁男

## 「この国の家づくりは」「住宅を売る」から「住まうを設ける」へと転換点に来ている

日本人が家づくりに文化を取り戻せば、あの判で押ししたような分譲住宅もローコスト住宅は本当の質(QOL)を語ることはできなくなるでしょう。

①手術後のリスクについてなるべく正確に伝える。必ずしも手術のみを勧めるのではなく、リスクを回避するための延命策についても開示し、患者に判断させる

一例を挙げましょう。開口部を大きく取ると確かに明るく気持ちの良い空間が作れます。しかし、構造的にはその部分は構造耐力が弱くなる。吹き抜けについても同じです。ラーメン構造にすれば、安全で気持ちいい空間が作れますが、コストは上昇します。

間違っていたこと」で読者に一番お伝えしたかったことはここにありませぬ。私は、客観的な構造技術(構造計算書)はおお客様のQOLを向上させるのに、必要不可欠な要素であると信じています。

住宅が、家づくりが「質」、それもお客様のQOLを考へる時、「それを支えるもの」とは何か? 医療の世界で患者のQOLを支えるとき、一番重要なことは「インフォームドコンセント」

②手術後のリスクについてなるべく正確に伝える。必ずしも手術のみを勧めるのではなく、リスクを回避するための延命策についても開示し、患者に判断させる

「家、三匹の子ぶたが間違っていたこと」で読者に一番お伝えしたかったことはここにありませぬ。私は、客観的な構造技術(構造計算書)はおお客様のQOLを向上させるのに、必要不可欠な要素であると信じています。

最後に、拙著「家、三匹の子ぶたが間違っていたこと」が第7版を数えるにいたしました。ご購入いただいた読者の皆様に御礼申し上げます。

医師は手術する前に以下のインフォームドコンセントを行うことがあたり前になっています。

③他の医者にもカルテを開示し、セカンドオピニオン(第三者の意見)を患者が取り入れることを許可する

こうしたことを正確にお伝えして判断をさせてあげることが、住宅のQOLには必要なことだと考へます。壁の枚数を数えたり、実大実験のビデオを見せる、数値も伝えずに安全だと連呼する。こんなことをこの業界の慣習としたままにするのはもう古いのでは?

「家、三匹の子ぶたが間違っていたこと」で読者に一番お伝えしたかったことはここにありませぬ。私は、客観的な構造技術(構造計算書)はおお客様のQOLを向上させるのに、必要不可欠な要素であると信じています。

①手術前の検査結果を正しく患者に伝える

④その上で合意を求めらるる家づくりを進める上で施主のQOLを向上させる方法も同じではないでしょうか。

「家、三匹の子ぶたが間違っていたこと」で読者に一番お伝えしたかったことはここにありませぬ。私は、客観的な構造技術(構造計算書)はおお客様のQOLを向上させるのに、必要不可欠な要素であると信じています。

「家、三匹の子ぶたが間違っていたこと」で読者に一番お伝えしたかったことはここにありませぬ。私は、客観的な構造技術(構造計算書)はおお客様のQOLを向上させるのに、必要不可欠な要素であると信じています。

構造の安全性については、まず構造計画と構造計算がそれにあたりと思うのです。

おお客様の安全とコストについて、しっかりと数字を持って相談することが、住宅の質を考へる上で重要なことなのです。

「家、三匹の子ぶたが間違っていたこと」で読者に一番お伝えしたかったことはここにありませぬ。私は、客観的な構造技術(構造計算書)はおお客様のQOLを向上させるのに、必要不可欠な要素であると信じています。

「家、三匹の子ぶたが間違っていたこと」で読者に一番お伝えしたかったことはここにありませぬ。私は、客観的な構造技術(構造計算書)はおお客様のQOLを向上させるのに、必要不可欠な要素であると信じています。



「家、三匹の子ぶたが間違っていたこと」田鎖郁男、金谷年展(著) ダイヤモンド社 1429円(+税)



**田鎖郁男**  
たくさり いくお  
株エヌ・シー・エヌ代表取締役社長。1965年埼玉県生まれ。日商岩井株の木材本部で木材の輸入などを担当後、96年にエヌ・シー・エヌ設立。全棟で構造計算を行う集成材+金物工法「SE構法」の普及に10年間取り組む。06年に社長就任。TEL 03-5775-7357